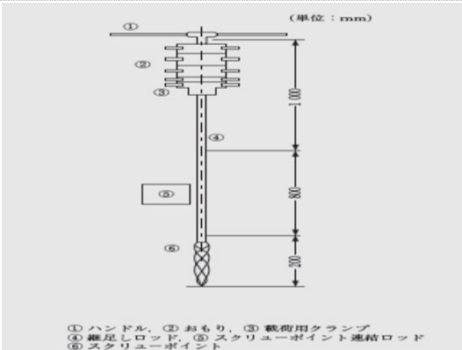
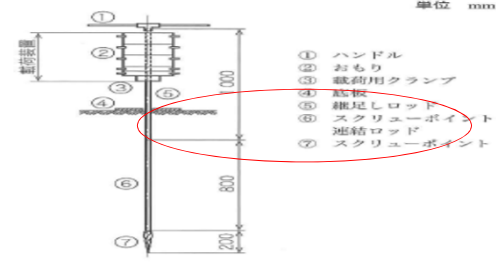


『地盤調査の方法と解説(2012年度版)』正誤表

平成26年2月26日作成  
2021年11月16日更新

ページ	反映	段・行・特定の位置	訂正箇所(誤)	訂正内容(正)
1	訂正第2刷(2014年)	図-1.1.2 調査方法の種別—詳細調査—「現地計測」の枝のところ	※空欄	地下水位変動観測:第7編
6	訂正第2刷(2014年)	表-2.1.3	高圧ガス取締法	高圧ガス保安法
61	訂正第2刷(2014年)	JGS 3811基準の英文名	classification	classification
110	訂正第2刷(2014年)	基準 25行目	注記 見かけ比抵抗曲線及び自然電位曲線の例を、図4に示す。	※1行削除
170	訂正第2刷(2014年)	表-2.2.1 下から5行目	JGS 1421 孔内水平載荷試験方法	JGS 1531 地盤の指標値を求めるためのプレッシャーメータ試験 JGS 3531 地盤の物性を評価するためのプレッシャーメータ試験 JGS 3532 ポアホールジャッキ試験 ※上記3件の基準に置き換える。ボーリング孔径の欄はφ68、φ86、φ110に○、φ150以上に△を追加、対象の欄は「孔壁」。
308	訂正第2刷(2014年)	右段 3行目	柔らかい(soft)	軟らかい(soft)
308	訂正第2刷(2014年)	表-2.5.4 コンсистенシー欄1、2行目	非常に柔らかい 柔らかい	非常に軟らかい 軟らかい
308	訂正第2刷(2014年)	図-2.5.26 図の右上端	固結した	固結した
310	訂正第2刷(2014年)	表-2.5.6 「砂岩・礫岩・深成岩類」—「内部摩擦角」の欄	25.3 logN+29.3	5.10 logN+29.3
325	訂正第2刷(2014年)	基準 下から3行目	これらの引用規格は、この最新版～	この引用規格は、この最新版～
326	訂正第2刷(2014年)	基準 11行目	貫入開始後50N、150N、～	50N、150N、～
326	訂正第2刷(2014年)	基準 19行目	試験装置及び器具は、次による。	4.1 スウェーデン式サウンディング試験装置
326	訂正第2刷(2014年)	基準 22行目	～回転数と貫入量との関係が求められるもの。	～回転数と貫入量との関係が求められるものとする。
326	訂正第2刷(2014年)	基準 23行目	a) スクリューポイント	4.2 スクリューポイント
326	訂正第2刷(2014年)	基準 24、25行目	～図1に示す形状のもの。図1に示す寸法及び角度は、すべて±1%の許容差を含む。	～図1に示す形状のものとする。図1に示す寸法及び角度は、全て±1%の許容差を含む。
326	訂正第2刷(2014年)	基準 26行目	b) ロッド	4.3 ロッド
326	訂正第2刷(2014年)	基準 28行目	～ごとに日盛があるもの。	～ごとに日盛があるものとする。
326	訂正第2刷(2014年)	基準 29、30行目	1) スクリューポイント連結ロッド 径 19±0.2 mm、長さ 800±0.8 mm、スクリュー連結部から 50 mm の位置に日盛があるもの。	a) スクリューポイント連結ロッド 径 19±0.2 mm、長さ 800±0.8 mm、スクリュー連結部から 50 mm の位置に日盛があるものとする。
326	訂正第2刷(2014年)	基準 31行目	2) 継足しロッド 径 19±0.2 mm、長さ 750±0.8 mm 又は 1 000±0.8 mm	b) 継足しロッド 径 19±0.2 mm、長さ 750±0.8 mm 又は 1 000±0.8 mm
326	訂正第2刷(2014年)	基準 32行目	c) 載荷装置	4.4 載荷装置
326	訂正第2刷(2014年)	基準 34行目	図2に載荷用クランプを示す。	図2に載荷用クランプの例を示す。
326	訂正第2刷(2014年)	基準 35行目	おもりは図3に示す鋼鉄製のものです。	図3に示すおもりの例は鋼鉄製のものです。
	訂正第2刷(2014年)	図4	<p>※図の差し替え</p>  <p>① ハンドル、② おもり、③ 載荷用クランプ ④ 継足しロッド、⑤ スクリューポイント連結ロッド ⑥ スクリューポイント</p>	<p>※「④彫板」の追加 「スクリューポイント」の形状</p>  <p>単位 mm</p> <p>① ハンドル ② おもり ③ 載荷用クランプ ④ 彫板 ⑤ 継足しロッド ⑥ スクリューポイント ⑦ スクリューポイント</p>
327	訂正第2刷(2014年)	基準 下から8行目	～すべて±2%の許容差を含む。	～全て±2%の許容差を含む。
327	訂正第2刷(2014年)	基準 下から7行目	d) 回転装置	4.5 回転装置
327	訂正第2刷(2014年)	基準 下から5行目	～60半回転数程度で制御できるものとする。なお、機械化されたものについては、規定荷重や回転機能が検定された装置を～	～60半回転数程度以下で制御できるものとする。なお、機械化されたものについては、規定荷重又は回転機能が検定された装置を～
327	訂正第2刷(2014年)	基準 下から4行目	～半自動(回転のみが機械的に自動で～	～半自動(回転だけが機械的に自動で～
327	訂正第2刷(2014年)	基準 下から1行目	～回転数は付属する～	～回転数は附属する～
328	訂正第2刷(2014年)	基準 2行目	e) 引抜き装置	4.6 引抜き装置
328	訂正第2刷(2014年)	基準 3行目	引抜き装置は、試験が終了した後～	引抜き装置は、試験が終了した後～
328	訂正第2刷(2014年)	基準 4行目	f) 記録用具又は記録装置	4.7 記録用具又は記録装置

ページ	反映	段・行・特定の位置	訂正箇所(誤)	訂正内容(正)
328	訂正第2刷(2014年)	基準 7, 8行目	1) 各荷重段階での荷重及び貫入量を記録できる。 2) 半回転数及びそれに伴う貫入量を記録できる。	a) 各荷重段階での荷重及び貫入量を記録できる。 b) 半回転数及びそれに伴う貫入量を記録できる。
328	訂正第2刷(2014年)	基準 31行目	j) 以下の状態が確認された場合は測定を終了について検討する。	j) 次の状態が確認された場合は測定を終了について検討する。
328	訂正第2刷(2014年)	基準 36行目	～引抜き装置によってロッドを <b>引き抜き</b> 、その本数を点検し～	～引抜き装置によってロッドを <b>引き抜き</b> 、その本数を点検し～
328	訂正第2刷(2014年)	基準 43行目	c) 貫入量 1 m 当たりの値は、次の式で計算し、 <b>JIS Z 8401(数値の丸め方)</b> によって有効数字2桁まで表示する。	c) 貫入量 1 m 当たりの値は、次の式で計算し、 <b>小数点第一位を四捨五入</b> し表示する。
328	訂正第2刷(2014年)	基準 46～48行目	$N_{sw}$ : 貫入量 1 m 当たりの半回転数 $N_s$ : $L$ の長さの貫入に要した半回転数 $L$ : 貫入量(m) $L=0.25$ m の場合は $N_{sw}=4N_s$	$N_{sw}$ : 半回転数 $N_s$ を貫入量 1 m 当たりに換算した半回転数 $N_s$ : 貫入量 $L$ に要した半回転数 $L$ : 貫入量(m) <b>※<math>L=</math>以下を削除</b>
329	訂正第2刷(2014年)	基準 2, 3行目の間	<b>※一行追加</b>	なお、*が付いているものについては、 <b>必須事項である。その他のものについては、必要に応じて記録を行えばよい。</b>
329	訂正第2刷(2014年)	基準 3～11行目、a)～i)の細目番号の後ろ	a) 調査件名 b) 試験年月日 c) 地点番号 ... i) 静的貫入抵抗 ( $W_{sw}(N)$ , $N_{sw}$ ) の深さ分布図	a) * 調査件名 b) * 試験年月日 c) * 地点番号 ... i) * 静的貫入抵抗 ( $W_{sw}(N)$ , $N_{sw}$ ) の深さ分布図
329	訂正第2刷(2014年)	基準 11, 12行目の間	<b>※一行追加</b>	j) その他特記すべき事項
399		データシートの記入例 規格・基準番号	JIS A 1435	JGS 1435
401-402		データシートの記入例 規格・基準番号	JIS A 1220	JGS 1435
403		データシートの記入例 規格・基準番号	JIS A 1435	JGS 1435
454		左段 下から9行目	$f_{t(50)} = P_{(50)} / 25$	$f_{t(50)} = P_{(50)} / 2500$
509	訂正第2刷(2014年)	データシートの記入例 試験名	ボーリング孔を利用した砂質・礫質地盤の地下水位の測定 <b>方法</b>	ボーリング孔を利用した砂質・礫質地盤の地下水位の測定
607-609	訂正第2刷(2014年)	データシートの記入例 試験名	単孔を利用した透水試験 <b>方法</b> (非定常試験/直線勾配法)	単孔を利用した透水試験(非定常試験/直線勾配法)
610	訂正第2刷(2014年)	データシートの記入例 試験名	締め固めた地盤の透水試験 <b>方法</b>	締め固めた地盤の透水試験
611	訂正第2刷(2014年)	データシートの記入例 下方の式	$k = \frac{(2.3d_p)^2}{8L} \log_{10} \frac{(2L)}{D} a$	$k = \frac{(2.3d_p)^2}{8L} \log_{10} \left( \frac{2L}{D} \right) a$
619	訂正第2刷(2014年)	基準 7行目(A.1 b))	トレーサー投入直後(0分)の <b>電気抵抗</b> と各測定時間の <b>電気抵抗</b> との差(電気抵抗変化量)を、各測定点について計算する。	トレーサー投入直後(0分)と各測定時間との <b>電気抵抗値</b> (若しくは <b>比抵抗値</b> )の差(電気抵抗変化量と呼ぶ)を、各測定点について計算する。
629	訂正第2刷(2014年)	解説 図-4.3.1キャプション	孔内水位が深い場合の <b>比抵抗</b> 測定による方法と温度測定による方法の対比(竹内 <sup>2)</sup> )	図-4.3.1 孔内水位が深い場合の <b>電気抵抗</b> 測定による方法と温度測定による方法の対比(竹内 <sup>2)</sup> に <b>加筆修正</b> )
657	訂正第2刷(2014年)	データシートの記入例 試験名	トレーサーによる地下水流動検査(電気抵抗測定法)	トレーサーによる地下水流動検査(電気抵抗測定法)
657 658	訂正第2刷(2014年)	データシートの記入例 試験名	トレーサーによる地下水流動検査(温度測定による方法)	トレーサーによる地下水流動検査(温度測定による方法)
658 659	訂正第2刷(2014年)	データシートの記入例 試験名	トレーサーによる地下水流動検査(温度測定による方法)	トレーサーによる地下水流動検査(温度測定による方法)
661	訂正第2刷(2014年)	左段 上8-9行目	～地盤に与える <b>載荷</b> 応力と地盤の変形～	～地盤に与える <b>載荷</b> 圧力と地盤の変形～
661	訂正第2刷(2014年)	左段 上22行目	「規格票の様式および作成方法(JISZ8301)」	<b>※フォントを「ゴシック体」に</b>
662	訂正第2刷(2014年)	表-8.1.1 平板載荷試験の試験方法の主な適用の枠の5行目	支持力管理 <b>※カタカナの「か」</b>	支持力管理
662	訂正第2刷(2014年)	表-8.1.1 平板載荷試験の載荷方法の枠の1行目	・直径300 <b>cm</b>	・直径300 <b>mm</b>
662	訂正第2刷(2014年)	表-8.1.1 道路の平板載荷試験の試験方法の主な適用の枠の5-6行目	・品質管 <sup>6), 7)</sup>	・品質管 <sup>6), 7)</sup>
662	訂正第2刷(2014年)	表-8.1.1 道路の平板載荷試験の載荷方法の枠の1行目	・直径300, 400又は750mmの	・直径300, 400又は750mmの <b>載荷板</b>
662	訂正第2刷(2014年)	表-8.1.1 現場CBR試験の対象地盤の枠の1行目	道路, 滑走路地盤	道路, 滑走路, 地盤
662	訂正第2刷(2014年)	表-8.1.1 下方左の欄(縦書き)	規格基準以外の試験	規格・基準以外の試験
667	訂正第2刷(2014年)	基準 下から19行目	～クリーブ量を測定時間1分と30秒に対応する～	～クリーブ量を <b>孔壁圧力保持時間(1分又は2分)</b> と測定時間1分と30秒に対応する～
667	訂正第2刷(2014年)	基準 下から19行目	～クリーブ量を孔壁圧力保持時間(1分又は2分)と測定時間30秒に対応する～	～クリーブ量を孔壁圧力保持時間(1分又は2分)と測定時間 <b>1分</b> と30秒に対応する～
692		左段 式(2.6.24), (2.6.25)内の記号	$\rho$ $\rho_0$ $\rho_1$	$\rho'$ $\rho_0$ $\rho_1$
692		左段 式(2.6.25)内の指数	$m-1/m$ $n+1/n$ $m/m-1$	$(m-1)/m$ $(n+1)/n$ $m/(m-1)$
692		左段 式(2.6.25)	$b_3 = (1-2\nu') \left( \frac{m+1}{m+n} \right) (\rho_1 - \rho_0)$	$b_3 = (1-2\nu') \left( \frac{m+1}{m-1} \right) (\rho_1 - \rho_0)$
692		右段 式(2.6.25)続き	$\sin\psi' = \frac{\sin\phi' - \sin\phi_0}{1 - \sin\phi' \cdot \sin\phi_0}$	$\sin\psi' = \frac{\sin\phi' - \sin\phi_0}{1 - \sin\phi' \cdot \sin\phi_0}$
692		右段 式(2.6.25)下の文章	$\rho$ : 応力 (MN/m <sup>2</sup> ) $\rho_0$ : 初期応力 (MN/m <sup>2</sup> ) $\rho_1$ : 降伏応力 (MN/m <sup>2</sup> ) $\phi_0$ : 残留摩擦角 (°) 残留摩擦角 $\phi_r$ は未定であるが、 $\phi_r$ の影響度は低いので、 $\phi_r=2/3 \cdot \phi'$ と仮定する。	$\rho'$ : <b>有効</b> 応力 (MN/m <sup>2</sup> ) $\rho_0$ : 初期応力 (MN/m <sup>2</sup> ) $\rho_1$ : 降伏応力 (MN/m <sup>2</sup> ) (= $c' \cos\phi' + \rho_0 (\sin\phi' + 1)$ ) <b>※Gの下から移動</b> $\phi_0$ : 残留摩擦角 (°) 残留摩擦角 $\phi_r$ は未定であるが、 $\phi_r$ の影響度は低いので、 $\phi_r=2/3 \cdot \phi'$ と仮定する。
696	訂正第2刷(2014年)	図表-2.5.1 データシートの記入例 ページ中ほどの吹き出し	スタンドバイブ 1' 読み -30° 読み	スタンドバイブ 2' 読み -30° 読み
696	訂正第2刷(2014年)	図表-2.5.1 データシートの記入例 「メーター支持圧力」の列 1行目	0 設置時初期圧 $\rho m_0$	0 設置時初期圧
696	訂正第2刷(2014年)	図表-2.5.1 データシートの記入例 「スタンドバイブ」の列 1行目	初期値 ( $V m_0$ ) または ( $H m_0$ )	設置時初期値

ページ	反映	段・行・特定の位置	訂正箇所(誤)	訂正内容(正)
696		図表-2.5.1 データシートの記入例 特記事項欄	$Hm$ を計測、 $\Delta H = (Hm)_r - (Hm)_{30}$	$Hm$ を計測、 $\Delta H = (Hm)_r - (Hm)_{30}$
696		図表-2.5.1 データシートの記入例 特記事項欄	$\Delta r = [(Hm)_r - (Hm)_0] \times$ 校正係数	$\Delta r = [(Hm)_r - (Hm)_0] \times$ 校正係数
696		図表-2.5.1 データシートの記入例 特記事項欄	<b>※1行追加</b>	<b>ここに、<math>(Vm)_0</math> および <math>(Hm)_0</math> は初期値(設置前)</b>
697	訂正第2副(2014年)	左段 上8行目	・JIS A 1215「道路の平板載荷試験」	・JIS A 1215「道路の平板載荷試験方法」 <b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
697	訂正第2副(2014年)	左段 上9行目	・JIS A 1222「現場CBR試験」	・JIS A 1222「現場CBR試験方法」 <b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
697	訂正第2副(2014年)	左段 上11行目	・JGS 152「平板載荷試験方法」	<b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
697	訂正第2副(2014年)	左段 上13行目	「地盤の平板載荷試験(JGS 1521)」	「地盤の平板載荷試験方法(JGS 1521)」 <b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
697	訂正第2副(2014年)	左段 上15-16行目	「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験(JGS 3521)」	「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験方法(JGS 3521)」 <b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
697	訂正第2副(2014年)	左段 上16-17行目	「平板載荷試験(JGS 1521)」	「平板載荷試験方法(JGS 1521)」 <b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
697	訂正第2副(2014年)	左段 上20-21行目	「地盤の平板載荷試験方法(JGS 1521)」	<b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
697	訂正第2副(2014年)	左段 上21-22行目	「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験方法(JGS 3521)」	<b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
697	訂正第2副(2014年)	左段 上23行目	「平板載荷試験方法(JGS 1521)」	<b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
697	訂正第2副(2014年)	左段 上35-36行目	JSF T 25-81「地盤の平板載荷試験方法」	<b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
697	訂正第2副(2014年)	右段 上13-14行目	JGS 3521「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験」	<b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
697	訂正第2副(2014年)	右段 上15-16行目	「地盤の平板載荷試験方法(JGS 1521)」	<b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
697	訂正第2副(2014年)	右段 上16-17行目	「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験方法(JGS 3521)」	<b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
697	訂正第2副(2014年)	右段 上30-31行目	JIS Z 8301-2008「規格票の様式および作成方法」	<b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
697	訂正第2副(2014年)	右段 上41-42行目	JGS 3521「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験方法」	<b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
698	訂正第2副(2014年)	左段 上2行目	JIS A 1215「道路の平板載荷試験方法」	<b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
706	訂正第2副(2014年)	左段 上8行目	JIS A 1215「道路の平板載荷試験方法」	<b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
706	訂正第2副(2014年)	左段 上10行目	「地盤の平板載荷試験(JGS 1521-2003)」	「地盤の平板載荷試験方法(JGS 1521-2003)」 <b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
706	訂正第2副(2014年)	右段 上12-13行目	「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験(JGS 3521-2003)」	「剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験方法(JGS 3521-2003)」 <b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
714	訂正第2副(2014年)	左段 上11行目	直径30cmの円板	直径300mmの円板
714	訂正第3副(2016年)	左段 上11行目	$0.3 \gamma_r N_r S_r$	$0.3 B \gamma_r N_r S_r$ (数式にBを追加)
714	訂正第2副(2014年)	左段 上29行目	0.3m程度の小さな載荷板	300mm程度の小さな載荷板
716	訂正第2副(2014年)	右段 上21行目	JIS A 1215「道路の平板載荷試験」	JIS A 1215「道路の平板載荷試験方法」 <b>フォントを"ゴシック体"に</b>
718	訂正第2副(2014年)	6.報告 1行目	～、必ず(須)	必須
718	訂正第2副(2014年)	6.報告 12行目	～最少目盛り	最少目盛
718	訂正第2副(2014年)	6.報告 13行目	～最少目盛り	最少目盛
723	訂正第2副(2014年)	右段 上17行目	JIS A 1211「路床土支持力比(CBR)試験」	<b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
723	訂正第3副(2016年)	右段 上17行目	JIS A 1211「路床土支持力比(CBR)試験」	<b>JIS A 1211「路床土支持力比(CBR)試験方法」</b>
723	訂正第2副(2014年)	右段 上25行目	JIS A 1211「CBR試験」	<b>JIS A 1211「CBR試験方法」 ※フォントを"ゴシック体"に</b>
723	訂正第2副(2014年)	右段 上26行目	JIS A 1222「現場CBR試験」	<b>JIS A 1222「現場CBR試験方法」 ※フォントを"ゴシック体"に</b>
723	訂正第2副(2014年)	右段 上38-39行目	JIS Z 8301-2008	<b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
724	訂正第3副(2016年)	2行目	(JIS Z 8301:2008)	<b>(JIS Z 8301:2011)</b>
724	訂正第2副(2014年)	4.1a)載荷装置 図1	反力	<b>反力装置</b>
726	訂正第2副(2014年)	7.報告 1行目	～、必ず(須)	必須
727	訂正第2副(2014年)	右段 下8行目	JIS A 1203「土の含水比試験方法」	<b>※フォントを"ゴシック体"に</b>
729		左段 式(3.4.7)	$E = 1\ 960 \times$ 設計CBR (MN/m <sup>2</sup> )	$E = 2.0 \times$ 設計CBR (MN/m <sup>2</sup> )
729		左段 式(3.4.8)	$E = 3\ 920 \times$ 設計CBR (MN/m <sup>2</sup> )	$E = 4.0 \times$ 設計CBR (MN/m <sup>2</sup> )
729	訂正第2副(2014年)	右段 上11行目	$E = (4.9 \sim 9.8) \times$ CBR	$E = (4.9 \sim 9.8)$ CBR <b>※フォントを密着させる</b>
760	訂正第2副(2014年)	左段 10行目と11行目の間	<b>※4行追加</b>	$q_u = 98.1(-3.6 + 1.3f_u)$ (5.3.10) また、これら以外に固化材を添加した改良土の一軸圧縮強さ $q_u$ (kN/m <sup>2</sup> )と $f_u$ との関係式も求められている。 $q_u = 98.1(-1.20 + 0.34f_u)$ (5.3.11)
772	訂正第2副(2014年)	注記3 2行目	校正時の含水比や粒度から	校正時の含水比又は粒度から

ページ	反映	段・行・特定の位置	訂正箇所(誤)	訂正内容(正)
774	訂正第2刷(2014年)	7報告2行目	必ず(須)の	必須の
984	訂正第2刷(2014年)	図-11.3.1 図の右側	左側	右側
988	訂正第2刷(2014年)	図-11.3.7 下部説明の箇条1行目	・括弧内の記号は図-10.10.7を参照	※本行を削除
994	訂正第2刷(2014年)	左段 下から17行目	(1) 軟弱地盤における計測事例 <sup>24)</sup>	(2) 軟弱地盤における計測事例 <sup>24)</sup>
997	訂正第2刷(2014年)	左段 10行目	我國の	我が國の
998	訂正第2刷(2014年)	左段 15行目	物質の存在形態	汚染物質の存在形態
998	訂正第2刷(2014年)	左段 17行目	地層の構造特定	地層の構造の特定
1003	訂正第2刷(2014年)	右段 2行目	汚染除去等の措置	汚染の除去等の措置
1016	訂正第2刷(2014年)	右段 17行目	一次近似	一次元近似
1018	訂正第2刷(2014年)	左段 6行目	$h_{sk}=h_{sm}+h_{cm}$	$h_{sk}=h_{sm}+h_{sp}$
1021	訂正第2刷(2014年)	左段 14行目	～異なる細粒砂と粗粒砂を、細粒砂を粗粒砂～	～異なる細粒砂を粗粒砂～
1021	訂正第2刷(2014年)	右段 下から9行目	続土・壤・予測・	続土・壤・予測・
1043	訂正第2刷(2014年)	左段 10行目	ただし、他の手法～	また、他の手法～
1075	訂正第2刷(2014年)	下から9行目	5.1.2	6.1.2
1087	訂正第2刷(2014年)	右段 下から7行目	動水勾配	動水勾配 $i$
1087	訂正第2刷(2014年)	右段 下から6行目	$V=K_d/\mu_{rw}$	$V=K_d/\mu_{rw}$
1087	訂正第2刷(2014年)	図-10.3.2、図-10.3.3	測定区	測定区間
1089	訂正第2刷(2014年)	左段 4行目	曝露	曝露 ※他の章で「曝露」で統一しているため